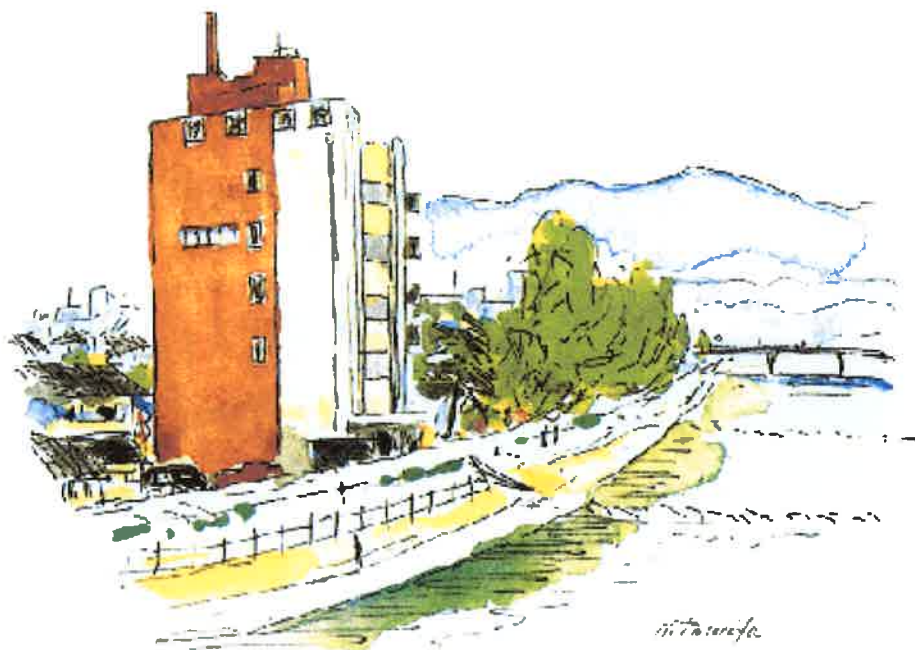


清流

広報誌タイトルは伊藤博名誉院長みずからのネーミングによるもので、患者さま一人ひとりに対して職員全員が犀川の清き流れの如く澄んだ気持ちでおだやかに思いやりを持ちながら対応させて頂ければと考えております。



清流

伊藤病院だより

第9巻1号

平成22年1月20日発行

発刊所

伊藤病院

〒920-0976

石川県金沢市十三間町98

Tel (076) 263-6351

Fax (076) 263-2526

<http://www.ito-hp.jp>日本医療機能
評価機構認定

病院の理念

患者さま中心の安全で質の高い医療を目指します。

地域との連携を大切にし、地域の保健・福祉に貢献します。

基本方針

専門性を生かし地域医療に貢献します。

患者さま中心の安全で質の高い医療を提供します。

心のこもった温かい最善の医療サービスに努めます。

患者さまの権利とプライバシーを守ります。

自らの技術・知識の向上に努めます。

ごあいさつ

病院長

伊藤 順

あけましておめでとうございます。

去年は政権のリーダーが変わり、新型インフルエンザが流行し、先の見通しがよくみえないまま新年を迎えました。

今年は冬季オリンピック・サッカーワールドカップが開催されます。県知事選・市長選と選挙の年でもあります。医療の立場からは、診療報酬改訂の年です。10年ぶりのプラス0.19%の改訂とのことで、病院にとっては喜ばしいことなのですが、国民一人一人には何らかの負担があるということになるわけです。そこで、それに応えるだけの医療の提供が求められるようになるとも思います。

病気であっても健康感を保つことが大切だと思います。私たち医療者は病気を治療することを期待されますが、患者様に対して生きる喜びや楽しみを持って生活していけるよう支援することも大切なことだと思います。

「寅」は十二支の3番目の干支で、草木が伸び始める状態を表すと解釈されています。地域の皆さんに貢献できる医療体制の芽が伸びていくことを願い、職員一同努力してまいります。

今年もよろしくお祝い申し上げます。



後発医薬品について

薬剤部

佐々木 智

後発医薬品という聞き馴染みのない方も多いかもしれないが、これはジェネリック医薬品のことです。

本来、ジェネリック医薬品という呼称は欧米で広く用いられていたもので、本邦でもそれに倣い使用されるようになりましたが、近年テレビやインターネット・雑誌など様々なメディアで取り上げられ、今では後発医薬品という名称より広く一般に認知されています。

今回は、そんな後発医薬品について、どのようなものであるかを簡単に説明しようと思うのですが、そのためには医薬品の開発・しなければなりません。

まず、新規に開発・製造された医薬品を先発医薬品といますが、その開発・製造には150億から200億という膨大な費用がかかります。

そこで、医薬品メーカーは先発医薬品を開発・製造した場合、その開発・製造コストを回収するため特許を取得し、一時的にその製造・販売権を独占するのですが、当然、特許がきれた時点でその独占は解除されます。

つまり開発メーカー以外の製薬会社もその医薬品を製造し、販売できるようになります。

このような先発医薬品の特許がきれた後、開発メーカー以外のメーカーが製造・販売した医薬品を後発医薬品といます。

この後発医薬品を語る上でポイントとなるのは、開発コストがかからないことであり、これこそ先発医薬品より価格を安く抑えられる所以です。ときとして6~7割り程度も安くなるのですから、医薬品の開発コストが如何に巨額であるか改めて思い知らされます。

そんな後発医薬品ですが、欧米での普及率が60%以上であるのに対して、本邦では10~20%程度と極めて低い状況です。

非常に安価な後発医薬品であるのに、一体なぜ本邦では普及しないのでしょうか。その理由として、下記の2点が挙げられます。

まず、後発医薬品の品質に対する医療従事者の信用の低さです。後発医薬品の場合、先発医薬品との製造工程の違いなどにより、必ずしも先発医薬品と同程度の効果を発揮しないことがあるからです。また、後発医薬品メーカーにその医薬品に関するデータが少ないことなども、信用の低迷に拍車をかけています。

もう1点は安定供給され難いことです。これは、後発医薬品メーカーの資本規模が必ずしも大きくないことに起因するのですが、リスクを最小限に抑えようとするあまり、売り上げのあがらない医薬品の製造・販売をすぐさま中止してしまうからです。開発コストの回収を考慮する必要がないことも拍車をかけているのでしよう。

このような書き方をすると、今後の後発医薬品の展望は位ものとなるように思うかもしれませんが決してそのようなことはありません。現在、後発医薬品メーカーはどんどん増えており、後発医薬品メーカー同士の競争が活発になってきています。結果、後発医薬品の品質は以前に比べ格段に向上しているように思われます。また、国が後発医薬品の使用を推進していることもあり、安定供給がなされるべく法が整備され、以前のような安易な販売中止はできなくなってきました。

今後、医療費抑制に後発医薬品の使用は欠かせません。そのためにも、後発医薬品の品質・信頼のますますの向上を期待したいものです。

お正月



当院では、お正月を病院で過ごされる患者様に正月気分を楽しんでいただけるように、おせち料理を提供しています。
また、干支の刺繍がはいたタオルもお渡ししています。

診察のご案内

診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	9:00	一診 伊藤 博	一診 伊藤 順	一診 網村 幸夫	一診 伊藤 順	一診 伊藤 博	一診 伊藤 透
	〃	二診 伊藤 順	二診	二診 的場 宗孝	二診	二診 伊藤 順	二診 伊藤 順
	13:00	三診	三診	三診	三診	三診	三診 伊藤 博
午後	14:00	一診 伊藤 順	一診 伊藤 順	一診 網村 幸夫	一診 伊藤 順	一診 伊藤 順	/
	〃	二診 伊藤 透	二診	二診	二診	二診 伊藤 博	
	17:30	三診	三診	三診	三診	三診	

* 胃カメラ・大腸カメラとも、月曜～土曜まで毎日検査が可能です。電話等によりお気軽にお問い合わせ下さい。

交通のご案内



- 北鉄バス
片町(金劇パシオン前)下車 徒歩5分
片町(ラプロ前)下車 徒歩10分
野町・広小路下車 徒歩7分
- 城下まち金沢周遊バス
十三間町(伊藤病院前)下車
- タクシー
JR金沢駅より10分

伊藤病院 日本医療機能評価機構認定病院
〒920-0976 金沢市十三間町98
Tel(076)263-6351 Fax(076)263-2526
URL: <http://www.ito-hp.jp> Email: info@ito-hp.jp



日本医療機能
評価機構認定

編集委員 伊藤 清水 坪坂 前田 嶋元